

吉備学会設立趣意書

「吉備」、それは、古代吉備国が日本統一前夜に強大な力を発揮したと考えられる歴史的栄光に輝く地です。しかしその栄光の影で、多くの謎に包まれた「解明の待望久しい地」でもあります。岡山県は1876年に創設されましたが、それまでの吉備の国は、備前・備中・備後・美作から成り、小豆島・直島などをはじめ瀬戸内の島々の範囲にもわたっていました。気候が温暖で広大な土地は肥沃であり、稲作の先進地で、奈良平野を上回る生産量を誇っていたものとみられています。また、瀬戸内海沿岸地帯は製塩業の中心地であり、北に広がる中国山地は花崗岩地帯で砂鉄の一大産地で、これが古代吉備王国を反映させた原動力でした。鉄と稲と塩という、きわめて重要な物資をととも豊富に生産する地方といえ、日本国中で吉備地方しかなかったほどです。

それから時代は下って、21世紀。歴史の流れの中に浮かぶ現代の吉備人たち。私たちは、このような吉備の栄光を背に受け、どこにどのように進むべきなのでしょう。歴史と文化が育ててきた良きものを「保存」(守る)・「再生」(取り戻す)し、より望ましいものを「創生」する(創り出す)活動を進めねばなりません。吉備の歴史の謎解きと、新たな吉備創生への旅に皆で出かけようではありませんか。

吉備という地域主体(ローカル)からの世界(グローバル)への発信、すなわち「ローバリズム」の追求を基盤にした営みが地域創生学です。地域創生学としての「吉備学」は、吉備地域から全国・世界へ発信していくこと(「ローバル社会」)を目指した地域創生学で、人間・社会・自然・文化のすべての課題解決をめざす総合学です。産学官民協同研究によって「総合人間生活学」として構想し、学問を大学中心の学会内部の研究体系に留めることなく、社会に開放し、社会に根付き、社会を創生する、地域住民主役の学問を目指しています。

たとえば、岡山を中心にした「吉備の国」における「桃太郎王国」としての歴史的・民俗学的研究を総結集し、岡山県と香川県とが連携・協働して、「桃太郎文化・経済圏」を建設し、「桃太郎文化学」の確立を通しての地域創生に努力したいと思います。ひいては「桃太郎」の精神を重んじ、すべての命を大切に、地球環境を守り、共存共栄を目指すものです。そのようなプロセスを踏みながら、地域創生学としての「吉備学」を確立したいものです。

吉備学は、吉備地域の総合力の向上を目指していますが、地域の総合力は、「家庭力・学校力・地域力」の「連力」です。地域の中で家庭・学校・地域の全構成員が連携・協働・融合して、吉備地域の総合力としての「連力」を創生していくことを目指しています。そして、生涯学習による「人づくり」、「地域社会づくり」に向けた生涯学習社会の実現を目指します。

これらの課題と展望に立って、産学官民すべての人の英知を集めて地域創生を目指す「吉備学会」の設立を提案します。本学会の設立の趣旨をご理解頂き、皆様の積極的な入会をお待ちいたします。

平成 19 年 3 月 19 日

設立代表者 松畑 熙 一

発起人一覧(五十音順)

有松 英昭、飯田 哲司、猪熊 真、今西 通好、大橋 宗志、木村 宏、越宗 孝昌、小嶋 光信、佐藤 大介、佐藤 信、柴岡 元、島津 義昭、角田 みどり、住野 好久、立石 憲利、千葉 喬三、中島 博、鍋島 豊、原 憲一、福武 總一郎、古市 大蔵、松畑 熙一、三浦 孝仁、薬師寺 茂、吉川 昌宏